

議会だより

祝 南三陸町成人



No. 40

みなみさんりく

平成 28 年 2 月 1 日発行

特集

議会と住民との
懇談会 P2



新委員会構成に ————— 〈委員会報告〉 P 5
生まれ変わる伊里前商店街 ——— 〈補正予算〉 P 6
町民バス、民営有料化へ ——— 〈条例改正〉 P 8
ここが聞きたい ————— 〈一般質問〉 P10
請願・陳情・要望書 ————— P17

より住民に近い議会に

震災から4年半、今の課題は

平成27年11月7日、9日、10日、議会行財政改革に関する特別委員会では、昨年を引き続き「議会と住民との懇談会」を町内外9カ所を会場に開催しました。
今年も3班に分かれ、議会活動や復興事業の進捗情報を報告するとともに、住民のみなさんとの距離をさらに縮めていくためにも、たくさんのご意見、ご要望を聞きました。
その中で、特別委員会として町当局に回答を求め、回答を得たもののうち主なものは次のとおりです。

質問 新病院が開院するが、待ち時間の長さなど、今までの不便は解消されるのか。また、小児科、婦人科は常設されるのか。

回答 新病院の開院にあたり、診察前の待ち時間減少に向けた取り組みを喫緊の課題と考え、予約時間の細分化により、予約時間の30分前程度において頂くなど待ち時間を減少させる取り組みを行っている。
小児科、婦人科はこれまで通り非常勤医師による対応となり、小児科の都合月水金の週3回の外来

診療、婦人科は毎週金曜日の診療となる。

質問 仮設の空室利用について、家族が町外から町内への移住を希望しているが、仮設住宅には入れないのか。

回答 仮設住宅は、原則として被災者以外は入居できないが、移住等の要望に対しては、入居者がいなくなった仮設住宅を定住促進住宅に再利用・整備し対応をしている。

質問 災害公営住宅の集合タイプには屋外に水道

が付いているが、戸建てタイプには付いていないので、改善してほしい。

回答 平成28年度において早急に整備することとし、整備手法の検討等を進めていく。

質問 復興住宅では換気が配らないとカビが発生し、健康被害が出る心配があるので、現場状況を確認して解決策を講じてほしい。

回答 復興住宅は構造的に気密性が高く十分な換気が必要となり、その対策として24時間換気シス



津山会場

質問 町民バスはいつ頃から有料化されるのか。

回答 平成28年4月を目標とし、準備をすすめている。

質問 歌津駅には町民バスの停留所がないので、設置してほしい。

回答 現在は伊里前福幸商店街に設置しているが、復興事業の状況を見極めながら、早期に移設できるように調整する。

質問 人口減少対策として、若者の雇用を生み出すためにも、工場誘致、企業誘致に力を入れてほしい。

回答 産業の充実や創出は重要な取り組みであるとして、企業誘致、企業誘致や新規創業者支援を進めるとともに、町内既存企業の魅力向上にも取り組み、魅力的な雇用の場づくりを総合的に推進する。

質問 産業の再生、特に農業の再生には更なる努力が必要だと思ふ。

回答 産業の再生、特に農業の再生には更なる努力が必要だと思ふ。

テムを導入し、入居前の説明会においても注意喚起している。今後も適切な換気及びカビ対策の実施を周知するとともに、被害が発生した場合は現地確認を行い、必要な対策を講じていく。

質問 いまBRTが走っているが、鉄路復旧にはならないのか。

回答 鉄路復旧は多額の

質問 ほ場整備工区においては、補完工事等により農地の耕作条件改善を図る。また、ねぎ等園芸作物の産地化を推進し、JA等関係機関と一体となって南三陸町農業の再生を図って行きたい。

回答 ほ場整備工区においては、補完工事等により農地の耕作条件改善を図る。また、ねぎ等園芸作物の産地化を推進し、JA等関係機関と一体となって南三陸町農業の再生を図って行きたい。

質問 漁港内に流木が多く被害が出ているが、最終的な処分が出来ず積み上げられたままである。塩害、マツクイムシ対策など、根本的解決のために実態調査が必要では。

回答 漁港内の流木について、建設課において年1回搬出処分を実施している。
質問 町内沿岸部の被害木については、洋上より調査を実施しており、漂流物とならないよう国県等の関係機関と協議しながら対策を検討する。

質問 伊里前漁港の船揚げ場は元の位置ではなく、別の場所へ長さを延長しての復旧を要望しているが。

回答 災害復旧事業は原



中瀬町会場

質問 新しい水源地として被災した地域3カ所が整備されたが、災害が起きた際にどう対応するか。

回答 一定の水量を確保するためには、浸水区域を免れて水源を確保することは大変困難な状況である。津波対策として、最大クラスの津波浸水予測範囲以外の箇所を選定し、機械電気設備の浸水防止、自家発電設備の充実を図っている。

新委員会構成に

南三陸町議会では、審議される議案を詳しく調査するために3つの部門に分けて常任委員会を設置し、専門的に調査しています。

平成27年11月16日付けで、2年間の任期満了に伴い常任委員会の体制が変わりましたので報告いたします。

総務常任委員会 (定数6人)

役職名	氏名	担当する分野
委員長	高橋兼次	町政振興、防災、財務、税務、庶務及び他の 常任委員会の所管に属さない事項
副委員長	今野雄紀	
委員	山内孝樹	
	三浦清人	
	小野寺久幸	
	欠員	

産業建設常任委員会 (定数5人)

役職名	氏名	担当する分野
委員長	山内昇一	産業経済、建設及び上下水道に関する事項
副委員長	西條栄福	
委員	佐藤宣明	
	村岡賢一	
	佐藤正明	

民生教育常任委員会 (定数5人)

役職名	氏名	担当する分野
委員長	菅原辰雄	民生、保健、医療、教育及び環境に関する事項
副委員長	後藤伸太郎	
委員	後藤清喜	
	阿部建	
	及川幸子	

○その他、このような意見も出されました。

- ☆町では子育て支援に力を入れているが、それより先に結婚問題ではないか。
- ☆住民の要望は、住民自身がしっかり声を上げていく必要もあると思うが、どう伝えればいいのか。
- ☆震災で人口が減ったが、まだまだ減っていくと思う。財政面などで子供たちに問題を残さないように考えてほしい。
- ☆廻館地区のグラウンドゴルフ場が11月で閉鎖されるので、代替地を志津川地区に整備してほしい。
- ☆仮設住宅の玄関の踏み台などが劣化してきているので、点検整備をしてもらいたい。



南方仮設住宅集会所会場

議会と住民の懇談会開催状況

11月7日(土)	11月9日(月)	11月10日(火)
平成の森 3人	津山公民館 11人	志津川中仮設住宅集会所 17人
中瀬町仮設住宅集会所 24人	南方仮設住宅集会所 30人	入谷公民館 12人
入谷復興住宅集会所 12人	吉野沢仮設住宅集会所 16人	旧戸倉中仮設住宅集会所 4人
合計 129人		

災害復旧事業に3年間で20億円追加

戸倉線道路新設工事や町道橋梁の修繕など緊急性・特殊性のある事業に係る所要額を計上

一般会計

問 国道45号線の工事に係る伊里前地区の進捗状況は。

答 45号線の方線は決定しているが、工事用道路と河川との関係で工事が遅れている。現在、国と県において盛んに協議されている。決定次第、国道の工事に入っていく。

問 水産加工業従業員宿舍補助金について、地元、町外、外国いずれの方を対象とするのか。

答 従業員の確保が難しい中、県では4,000万円を上限で1/2を助成、現在2社が申請の意向である。宿舍について

は、町外、外国の方も含め従業員として確保していくための政策である。

問 水産加工従業員の家賃の補助制度があるが、町内事業者への周知は公平にされているのか。

答 現在の人手不足を解消する目的で、27年度新規に雇用された外国人の方も含む従業員の方に、1/2助成で一人月額3万円を上限に1社当たり5人分、180万円を助成するもの。周知については商工会を通じ説明した。

問 町内の防潮堤工事が大分難航しているようだが、現在の進捗状況と今後の見通しは。

答 空家の有効利用を考えることが出来ないか。

問 空家対策については町の総合戦略会議の中で出ている、ワンストップ窓口と言う位置づけからその準備を進めている段階だ。

答 19漁港で防潮堤を作る計画をしている。寺浜、長清水については工事が出来る段階になっており、平磯については保留解除の手続き中である。28年度中には全てのところの発注を終えたい。

問 素材生産売り払いは、森林経営計画に基づいているのか。

答 住宅再建が進む中、復興需要に備え南三陸材を市場に供給するとともに森林保全をすべく、有利な県の補助事業の中で実施した。また27年10月には「FSC」国際認証を取ることが出来た。



移動する伊里前仮設商店街

生まれ変わる 伊里前商店街

歩きだした新病院

特別会計

公共下水道事業

志津川地区の撤去工事費3,000万円を減額し、撤去工事調査に1,800万円を充て、伊里前地区の災害復旧費に1億7,000万円を追加計上、歳入歳出予算の総額が5億7,060万円となる。

問 志津川地区の下水道撤去工事調査設計業務に変更した経緯は。

答 国道沿いの下水管は国・県で経費を負担するが、町道路内は町の負担となるので調査が必要となった。

問 伊里前地区の下水道工事は具体的にどの場所なのか。

答 伊里前小学校の登校坂から駅前までである。

問 これから工事を発注し、年度内に完了するのか。

答 工事は市街地整備のかさ上げ完了後となるが、年度内に工事契約をして、実工事は繰り越しとなり山沿いの町道に埋設する計画を進めている。

病院事業

資本的収入及び支出

旧病院敷地売却による1億4,398万円の増額補正を計上。

問 新病院になり現医療スタッフで、十分対応できるのか。

答 全ての分野で不足状態、看護師は公募により5名位を採用と、再任用などを考えていきたい。

問 緊急医療時の検査技士が不足しているのでは。

答 新病院では医師が常時宿直に当たり、検査できる態勢を考えている。



晴れやかにテープカット

水道事業

収益的収入及び支出

収益的収入は給水収益で500万円の増額。支出は総務経費120万円の増額。

資本的収入及び支出

資本的収入は三陸道関連補償で1,420万円増額。支出は本年度中に復旧工事が出来ない額2億4,180万円を減額。

問 三陸道工事などで、水源に影響はないのか。

答 当町の水源は伏流水なので、影響はないと思う。

問 年度末に向け5億円の借り入れの内容は。

町民バス、民営有料化へ



町民の足の確保は

人事行政の運営等の状況の公表

・職員の勤務成績の評価から人事評価へ
・職員の休業状況の報告が追加された

問 人事評価はどのような形か。

答 自己評価を基に、上司が順次評価する。

問 人事は適材適所か。

答 ヒアリングをもとに、人事異動に反映している。



執務の状況

デイサービスセンター、老人福祉センターの条例を廃止

・指定管理から社会福祉協議会へ施設を譲渡し継続的サービスを

問 今後の社協のあり方は。

答 位置付けは、全く変わらない。

問 条例廃止と施設の譲渡が同時で問題がないか。

答 譲渡については、条例の公共的サービスにあたるので議会の議決はいらない。

町条例の一部改正

・減免申請が納期限の7日前から前日へ

・町税の申告に個人番号が必要に

町立保育所条例に戸倉保育所を追加

・28年度より戸倉団地内に再開

行政手続きにおける個人番号の利用に関する条例の一部改正

・番号法に定める個人番号の利用に、新たな対象事務を追加

問 通知カードの配達状況は。

答 4,665通のうち、現在100通弱の送付残である。

問 セキュリティーの問題の対策は。

答 コンプライアンス、専用回線の使用、職員ごとのパスワードで、一定程度以上のセキュリティーを確保する。

※コンプライアンス：法令遵守。特に、企業活動において社会規範に反することなく、公正・公平に業務遂行すること。

町民バス条例の廃止

・28年4月から有料化へ
・運行は民間事業者へ
・官民連携で利便性、低コストで継続的な運行を

問 精神障害者に対する補助制度は。

答 福祉作業所には、送迎用の車両がある。補助制度については今後考えていきたい。

問 不便解消のルート変更は。

答 現行でもルートを細かく、路線数も多くなっている。

問 新しい体制については民間に移行する必要があるのか。

答 新規参入の業者、既存の業者と協議してきた。利用料金はどれくらいになるのか。

答 歌津から寺浜まで500円ぐらいで検討している。

問 実証期間5年だが、途中での改正はあるのか。

被災市街地復興土地区画整理事業基金条例の制定

・国道や県道等の事業者である国、県から受け取る公共施設管理者負担金を適正に管理
・28年1月1日から施行

復興交付金基金条例の一部改正

・復興交付金事業の計画期間が32年度まで延長されたことに対応

町立認定こども園条例制定

・名足保育園を28年4月より認定こども園に移行

問 名足保育園と伊里前保育所への振り分けは。

答 申し込み状況は、志津川54名、伊里前69名、戸倉29名、名足30名となっている。



市街地整備も佳境

答 料金支払いのシステムなどは見直す予定だ。

問 新しい事業者の可能性も出てきているが。

答 現在、運輸局と最後の許可申請中だ。

問 業者の選定は、入札制度か公募でやるべきでは。

答 地域公共交通会議の中で何回も話し合い検討してきた。
問 条例制定を提案する前に、特定の業者と協議しているのか。
答 契約を前提とした協議ではなく、運行体制の確認部分だ。

討論

反対

小野寺久幸議員

これまでの質疑の中で曖昧な部分があり、一旦考え直す必要があると思われ反対する。

阿部建議員

現時点での条例がもう少し整備されてから、詳しい説明資料などをもとに、再提案を望み今回は反対をする。

賛成

菅原辰雄議員

今後、新しい民間業者を導入し、町民に不利益にならないよう、確実な運行体制に努力を求め賛成する。

山内昇一議員

多少説明不足感はあるが、内容的には十分納得しており、今後の改善を含めて賛成したい。

賛成8人、反対7人の賛成多数で可決されました。

圃場整備

営農が出来る整備を急げ

町長 安定した営農が図れるように対処していく



村岡 賢一 議員

問 圃場整備された土地に耕作出来ない所が多くあるが、なぜそうなったのか。

答 津波により従前の土を利用するのが困難であった。事業主体の県では、防集事業で発生する残土を有効活用するしかなかった。

問 圃場整備を請け負った方はその道のプロではなかったのか。

答 県の方でも当然事情を十分承知している業者としてお願いしたと認識している。

問 農地にならない石まじりの土を搬入したことが一番の間違いではないのか。

答 一度に整備は出来ないが、確実に耕作する所を優先的に整備、営農を再開してもらおう。

問 耕作をしている皆さんに、大変ご迷惑をかけていることは十二分に認識をしている。県も含め問題解決のため取り組んでいく。

答 耕作出来ない環境の中で農家の金銭的負担、精神的な負担は大きい。どのように対処するのか。

問 大型機械を導入して土地改良すると言うが、いつまで農家を待たせるのか。

答 来季耕作する圃場は優先的に補完工事をする



導入された大型機械

問 農地が未整備の中、農機具の保険料、電気代など農家への負担がかかりすぎるが支援策は無いのか。

答 この問題について、責任回避というのは全くない。今後、国、県、農協、農家と継続して話し

よう、強く要請している。運営方法なども農協も含め支援出来るよう検討する。

問 農業復活のため、厳しい環境の中でがんばっている農家の方々にとどのような対応をするのか。

答 営農組合を中心に、環境整備、農業経営など農業関係機関と一体となった取り組みで農家所得の向上を図る。



改良が必要な農地

ここが聞きたい

12月定例会では、7人の議員が15項目について一般質問を行い、各分野のさらなる復興について議論が展開されました。

(一般質問は質問者の原文のとおり掲載しています)

一般質問

体育振興

積極的にスポーツ環境の整備を

町長 各施設は計画に従い復旧、整備している

問 復興もまだ半ばであり、町民がスポーツに打ち込む環境は十分に整っていないが、どのように対応しているのか。

答 (教育長) 教育現場では、校庭が狭いなどの障害はあるが、限られた状況の中でもやれることはあり、素晴らしい成果を出している部活動もある。

問 スポーツ施設整備のスケジュールは。

答 松原グラウンドは平成29年度に竣工予定。平成の森は球場、管理施設とも、段階的に改修する。

問 新しい施設を整備する考えは。

答 グラウンドゴルフをする場所がほしいという要望はいただいているが、専用のコートを作る予定はない。

問 ベイサイドマラソンの復活は。

答 現在の状況では警察の許可が下りないと思うが、登米市の風土マラソンとの連携などは、今後考えられると思う。

問 スポーツの振興は外出のきっかけとなり、予防医療、コミュニティの発展にも大きく寄与する。

答 町民運動会は震災前から開催されなくなっていたが、希望が多くあれば再開は可能だと思おう。



しおがせ球場も整備が必要

環境対策

バイオマス産業都市構想の今後は

町長 まだ過渡期であり、今後も啓発活動に力を入れる

問 現在の生ごみの収集状況は。

答 まだ始まったばかりだが、計画の4割程度の収集率であり、地域によっても収集量にムラがある。

問 町民の協力が得られていないのでは。

答 収集量が少ないのは事業系のごみ収集をまだ始めていないため、生ごみの中への異物混入率は1%ほどと極めて低い。

問 事業継続のためには教育の分野とも連携し、町民の意識を高める必要があると思うが。

答 今後、環境教育の授業も視野に入れていく。新たな雇用は生まれているか。



分別にご協力を

問 集積場所が増加したこともあり、収集業者や処理施設で新規雇用が数名ある。

答 環境に責任を持つという観点で、国際的な認証制度の取得に向けた動きが結実した。FSC認証材の公共施設への使用は。

問 環境に責任を持つという観点で、国際的な認証制度の取得に向けた動きが結実した。FSC認証材の公共施設への使用は。

答 新役場庁舎には認証材を使用したい。



後藤 伸太郎 議員

町内行政区の再編の考え方は

町長 住民間の合意形成を促進していく



佐藤 宣明 議員

再編の基本的な考え方は。

まちづくり協議会からの提言も踏まえ、住民間の合意形成を図りながら進める。

決定までのプロセスとその時期は。

町でも一定の考え方を示し、しっかりと議論をして来年度タイミングを見ながら決めていく。

小規模に点在している場所への対応は。

残った地域、あるいは、自立再建した方々の意向を十二分に配慮して

いく。

防集団地への再建者と災害公営住宅入居者の区割は。

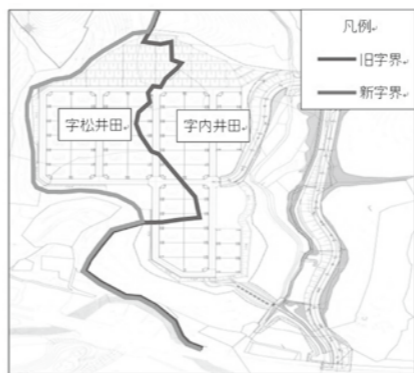
道路等の地理的条件を踏まえ、できるだけ一体的な形にしたい。ただし、大規模団地については適正な規模になるように考えていく。

既存集落と防集団地を結ぶ道路整備が必要と思うが。

被災自治体共通の課題である。国の交付金事業では一団地に一路線しか認められていない。地形的な制約と財源確保の問題があり、整備手法も含めて検討していく。

志津川西団地と既存集落を結ぶ路線はどうか。

西地区周辺道路については、生活に不便をきたさないように整備する必要がある。



変更される字界

復興事業

復旧復興事業の展開をどう検証評価しているか

町長 課題を確実に解決できる方策を講ずる

復旧復興事業の大幅な遅れや計画の見直しはあるか。

今のところそのような事例はない。

特に重要なのは住まいの再建であるが遅れないか。

平成28年度末には、町内全ての防集事業が完成する見込みである。

今後の交付金事業の展開と、財源の見直しは。

5省40事業のうち、当町では20事業に着手している。全体事業費の85%が担保されており、残りはソフト事業を中心としたものである。

震災復興特別交付税は継続して交付されるか。

復興交付金事業が平成32年まで延長されたので担保されている。

財政調整基金の残高は純粋な一般財源と考える良いのか。

現在68億円の残高であるが、震災復興特別交付金が肩代わりして入っている部分が相当あり、独自の一般財源は28億円ぐらいである。

普通交付税の算定基礎となる人口の捉え方の方向は。

被災自治体共通で強く要望しているが今のところ情報が少ない。

残された課題等は何か。

沢山あるが、人口減少、仮設住宅の集約、防集団地及び災害公営住宅へのスムーズな入居、低地部におけるぎわいの創出等である。確実に解決できるよう施策を講じていく。



本格復旧される魚市場

公共交通

町民バス運行の状況と課題は

町長 みんなで知恵を出し合う

町民バス運行の状況は。

町内11、町外1路線を定時運行している。平成26年度は7万3千人余が利用。アンケートなどで意見を聞き、利便性、安全性の確保に務めている。

28年度からの有料運行の理由は。

有料にしないと補助金がカットされるため。

運行経費と財源は。運行経費は7〜8千万円で、利用者一人当たり900円〜1000円で



バスの利便性は

利用したくてもできない人も多くいるが。

※デマンド型タクシーや※ドアツドア導入も方策だが、バスより経費が高いこと、タクシー事業者への配慮、現行の大幅な見直しの検討が必要であり難しい。

ある。財源は交付金と被災地特別補助金が2千5百万円〜3千5百万円である。

利用者が効率的に使えるかが最重要で、各地区の人すべてを拾っての運行は難しい。

対応策は。

※デマンド型タクシーや※ドアツドア導入も方策だが、バスより経費が高いこと、タクシー事業者への配慮、現行の大幅な見直しの検討が必要であり難しい。



菅原 辰雄 議員

住居が広範囲に点在している地域では、停留所が遠く利用できないとの声もあるが、全地区のバランスや車両の問題もあり解決していない。利

要であり難しい。

今利用できない人は諦めるといふことか。

宮城交通などの運行時にもそのような対応をしていない。町では利用者の利便性が高くなるかを考えている。

企業は利益を求めめるもので町営とは性質が違うもの。バスにこだわらず方策を検討すべきではないか。

停留所まで近所の人、家族の送迎などみんなが知恵を出し合うのも必要。利用困難な人々をフォローできるよう、次のステップとしていろいろ考えていきたい。

※デマンド型タクシー：自宅や指定の場所から目的地まで、利用者の希望する時間帯、乗車場所などの要望（デマンド）に応じて運行するタクシー。電話等による事前予約が必要なが多い。 ※ドアツドア： 「戸口から戸口」のことで、自宅の戸口から目的地まで直接移動できるといった利便性を意味する。

地方創生

総合戦略の目玉は

町長 南三陸らしさは風土

地方創生への考えと取り組みについて。27年度は職員間で英知を出し合いよりよい南三陸町を創るとしていたが内容は。

南三陸町らしさと考えたのが町の総合戦略であり、官民連携での取り組みが基本。人口減少問題では、民間に産休の取りやすい環境整備に、※産官学金労言とで取り組んでいる。

南三陸町らしさと総合戦略の目玉は何か。

豊かな自然、食料、人情など風土が南三陸町らしさであり、それが目玉である。それらを活用し総合戦略推進会議の内容を具現化していく。

※産官学金労言：産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア



豊かな自然

公園管理

簡易的な指定管理制度を

町長 アダプト・プログラムで対応



今野 雄紀 議員

問 気仙沼市内の45号線沿い、花壇の管理を地区の方たちがしている。それをヒントに、当町でも高齢の方たちの生きがいづくり、健康づくりのために、1日、1回の作業に出るお弁当程度の1000円ぐらいを支払い、小さな公園の草刈り、小規模な施設の美化を目的とした管理保全ができないか。

答 指定管理制度というより、道路や河川、公園などの公共施設を、ボランティア活動に意欲を持つ、地域の皆さん、企業の方々が清掃や美化活動に取り組み「アダプト・プログラム」制度がある。震災前の本浜老人クラブの漁港沿道の美化活動、桜沢愛林組合の国道清掃、緑化活動などがあり、復興の進捗で一定の住民自治が確立し次第、本制度を再開し、高齢者等の生きがいづくりや環境美化で地域への愛着、誇りを持つてほしい。

一般質問

Q & A

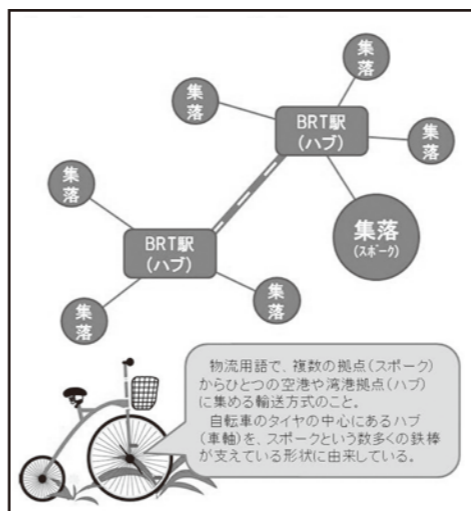
交通政策

BRTを活用した路線計画を

町長 ハブ駅へと位置付ける

問 バス路線を再構築する際、BRTを活用し路線のスリム化、事業費の削減、バス代負担の軽減の為に、「田園回帰1パーセント戦略」という本にある島根のまちづくりの駅構想にある、中山間地に有効な「ハブアンドスポーク構造」というシステムが十分に検討に値するのではないか。

答 来年4月より有料運行を予定している。BRTを地域公共交通の「幹」に、町民バスを「枝葉」と位置付け連携を図る必要があると考えている。JR気仙沼線の各駅をハブ駅と位置付け、町民バスは集落間、集落から駅までの輸送を担うことになる。それぞれの役割分担で最少の経費で最大の効果を得たい。



ハブ・アンド・スポーク構想

服務規程

職員の制服等の規定は

町長 品位ある服装で職務遂行を



新ケアセンター

問 新庁舎の完成、移転にむけてファイリングシステムなどの導入をはじめ、各種準備取り組みがなされている。

答 職員と臨時職員の差別化については、役場を訪れた町民等の利便性の向上に繋がることも考えられる。名札の色で青は職員、赤は臨時職員と区別している。新庁舎移転にむけて、職員一人一人が公務員として責任を自覚し、服装等も品位を失しないよう、より一層の住民サービスの向上に努めさせる。

介護施策

急げ介護ニーズの状況把握を

町長 元気老人を町で育てる

問 町はケアプラン作成事業を3月で廃止したが、今後の対応は。

答 民間事業所の育成と介護予防事業強化のため廃止し、町のケースは民間に移行した。

問 今後も高齢者人口が増え、民間事業所の撤退でサービス低下が心配されるが対策は。

答 一時ケアマネージャー不足を懸念したが、12月に1事業所が開始したので、今後のサービス環境として介護予防は行政で、要介護サービスは民間



元気老人が通う歌津デイ

問 町は仮設住宅入居者で介護者の指導に係った、大川弥生医師と地域包括が報道されたが、これからの大川医師と連携を続けていくのか。

答 大川医師に指導を受けて4年になる。しっかりと体制ができるもの

問 職員が町民にしっかりと指導していかないと理解医師は契約切れになったのか。

答 最初はボランティアで入ってもらったが、職員を指導していただいたので、謝礼し区切りとした。契約ではなかった。

問 介護サービスでは、ケアプランが一番重要なことだが、各ケアマネの余裕がなくサービス低下と苦情の心配もある。

答 3事業所で12人のケアマネがあり、その内新人1名には地域包括が指導にあたる。

問 国の方針は施設がいっぱいなので、居宅介護にスライドさせる意向であるが、社会福祉協議会との今後の連携は。

答 介護保険事業者としての位置付けからも、町にとっては最大の組織であり、地域福祉の核となる事業所である。

問 旧志津川と歌津の取り組みで数百人のヘルパーを履修させた。この人たちの大きな存在が地域で必要ではないか。居宅サービスを重要視する時期と思うか。

答 介護保険制度が始まったとき、さまざまな議論がありここまで来たが、基本的には元気老人を町で育てながら、この問題に取り組んでいかねばならないと思う。

鉄道と観光

気仙沼線は仙台から青森まで繋ぐ価値あり

町長 仙台まで長距離バスが走る

問 当町が観光で発展するための振興策をどのように考えているのか。

答 観光協会アンケートの結果、来訪者の7割が自家用車利用である。三陸道の延伸により、多様な交通手段が考えられ、JRに地域振興・観光振興を要望している。

問 仙台から鉄道がないからレンタカー利用が現状である。交通網全体を面として据える、と言われたが、仙台から岩手、青森まで線で結ぶべきと思うか。

答 JR東日本の最大の使命は本町に人を輸送することである。

問 この気仙沼線が当時の様な経緯で開設されたのか、知る範囲で説明願いたい。

答 地域の皆さんの熱い思いが結実したと認識している。

問 この線は明治29年の



及川 幸子 議員

一般質問

Q & A

町民の声をきいて!

請願書

請願12の1

道路施設の整備に関する請願書

【請願の要旨】

入谷公民館や各施設へ大型自動車等が容易に通行できるよう、町道鏡石岩沢線起点付近の鏡石橋に係る拡幅改良整備の請願。

請願者	入谷地区行政区長連絡協議会
	会長 山内 敏裕
紹介議員	菅原 辰雄 佐藤 正明
	小野寺 久幸

この請願書は、採択されました。

陳情書

陳情12の2

東日本大震災被災者の医療費一部負担金免除及び介護保険利用者負担の減免を被災市町村の負担によらず平成28年度継続するための財政措置を求める陳情書

【陳情の要旨】

生活再建に至らない東日本大震災被災者に対する医療費一部負担金免除及び介護保険利用者負担の減免を被災市町村の負担によらず平成28年度継続するための財政措置を求め、国・県に対して意見書の提出を求める。

提出者 宮城県社会保障推進協議会
会長 刈田 啓史郎

この陳情は、採択されました。

陳情書

陳情12の1

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める政府に対する意見書採択を求める陳情書の提出について

【陳情の要旨】

現在の宮城県における最低賃金額を改善と中小企業に対する支援策を拡充することで、労働者の生活と中小企業の経営を健全に発展させ、地域循環型の経済を実現するために、政府が必要な手立てを講じることを求める。

提出者 宮城県春闘共闘会議
代表 安藤 満

この陳情は、採択されました。

定住雇用

町民の定住化促進に雇用対策は

町長 関係団体と連携し、雇用促進事業を推進



山内 昇一 議員

問 町民の帰還時期に定住化対策で雇用の場は必要。更にI・Uターンの若者に新生南三陸町の魅力を発信すべきでは。

答 移住・定住促進には人口減少対策として雇用の場の構築を図り、無料職業紹介所を設置し仕事を斡旋した。また若者には地元定着に新規学卒者雇用促進事業や起業支援を行った。今後、企業誘致推進も考える。町内起業者の呼び込みと移住相談窓口でI・Uターンの若者に発信したい。

問 住民との懇談会で雇用の場の確保として企業誘致に取り組むべきと要望があった。受け皿を考え工場用地を造成し、若者の就業機会を増やすべきでは。

答 現在移住用住宅は一杯。有効求人倍率2倍で雇用の場はあるが、マッチングが課題。企業立地セミナーで誘致活動中だが厳しい。地道に活動を進める。

問 若者の雇用を作るために、道の駅に物産コーナーを備えては。

答 産直機能は検討中。台湾などからの※インバウンド増加のために、民泊の規制緩和を行なっている。

問 今回、宮城県の規制が緩和されたので、新病院の視察などに来てもら



現在の物産コーナー

※インバウンド：外国人の訪日旅行

避難道路

避難路線の整備と計画は

町長 環状線35%、東浜街道線50%の進捗、その他必要に応じ整備

問 復興工事で交通事情も変化している中で、避難路線の整備計画は。

答 震災復興計画に従い、避難階段、防波堤、3団地を結ぶ環状線、東浜街道線を施工中である。

問 被災時に緊急物資輸送路や町民避難道とし

た路線は、整備遅れもありません。早急な着手を望むが。

答 坂の貝線は500m程が未整備で、事業費とルートを再検討する。横断一号线は用地補償後に工事発注し、平成32年度完了予定。信倉線は、国道398号線取り付け部

分については三陸道の工事に合わせ改良済み。梨の木線は町道に編入する。大沢線については、緊急物資輸送路の機能は三陸道に代替できると考える。

名木保全

町長 被災後の名木は今後も適切に管理する

問 松くい虫被害や災害から免れた名木の現状は。

答 名木は16本が残り、今後樹木医の指示で管理する。荒沢神社内の太郎坊杉は、樹勢回復により一部では新芽が確認された。入谷の一本松は成果が出ていますが、土掘りと肥料入れを実施。普門院

の笠松は薬液注入中だが、松くい虫被害が判明し、有効手段があれば考える。



悲鳴をあげる名木

わたしの意見 あなたの提言

皆さんの考えをお聞かせ下さい。

「想いを大切に」



中の町 西城 勝 志さん

私は、コミュニケーションが苦手です。考えを表現する事が下手な者ですが頑張ります。元々、自宅は町内でしたが勤め先は登米市にある企業でした。震災後、日々、製品に向かい合いながら町の様子が頭から離

れず時間が経てば経つほど「町に直接関わりたい」そんな思いが強くなり、昨年地元を拠点としている企業に転職しました。だからと言って自分がなにか大きなビジョンを持ち、町へ貢献するほどの知識もありません。とにかくこの町で暮らしている事を実感したいのだと思えました。兼業農家をしながら微力な

がらも町に役立つ事が、きっとあるのだろうと考え、探しながらより一層町の魅力を引き出す、そして活かすきっかけ一つくらいは見つけたいです。そのためにも、コミュニケーションが苦手でも知り合った方々の想いや考えに触れる機会を持ち人と人の繋がりを大切にしたい。いつも、笑顔で私にパワーをくれる子供達の未来のために進んでいきたいです。



みなさんと共に あたらしい町づくり



「夢が持てる漁業を目指して」



水戸辺 西 條 信 和さん

震災後漁業の復興は、全国からの方々の支援者、ボランティアの方々の協力、そして漁業者の努力で今、自立することが出来ました。とても感謝しています。まだまだ十分ではありません。

ませんが、漁業の復興は町の活性化にもつながると信じがんばつています。

そして、これからの町の様子がどうなるか想像もつきませんが、町の運営、計画にかかわっている人たちにお任せする以外ありません。便利で住みやすい

町になることを信じて、今の生活をがんばっていききたいと思えます。住みやすい南三陸町になることを心から願っています。

皆さん議会傍聴に来て下さい

次回の定例議会は 3月を予定しています。

● 日程等詳しくは議会事務局にお問い合わせください。 TEL (0226) 46-1375
URL <http://www.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/18.html>

編集後記

新年あけましておめでとうございます。震災からの復興、新しいまちづくりも新たな段階に進んできていますが、この議会広報をお届けする特別委員会も新たな顔ぶれとなりました。2年間、よろしくお願いいたします。巻頭の特集では、昨年におこなわれた「議会と住民との懇談会」の様子を取り上げました。住民の皆さんと身近に意見を交わす機会を多く持つことで、議会もよりその役割を果たせるようになると思います。議会でも最年少の私が広報委員長の間に、そのような新しい取り組みにも着手できたらと思います。ご期待ください。

後藤伸太郎

議会広報に関する特別委員会

委員長 後藤伸太郎

副委員長 小野寺久幸

委員 今野 雄紀

村岡 賢一

及川 幸子

佐藤 正明